

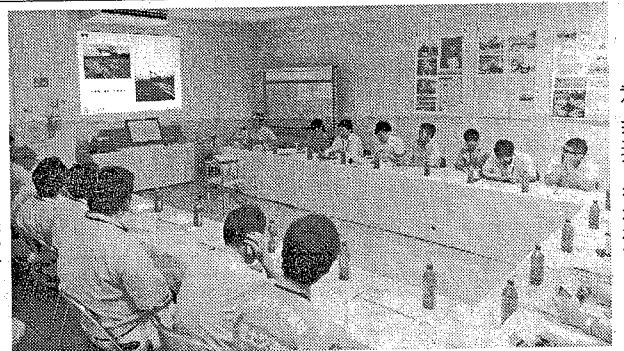
製造現場を熱心に見学

「きれいにして地球にもどす」をコンセプトに建設汚泥の処理・リサイクルを中心に事業を行うアイレック新潟（新潟県上越市、熊木繁雄社長 ☎025・544・6381）にて、北陸地方建設副産物対策連絡協議会が、建設リサイクル見学会を行った。今回の見学会は、北陸地方建設副産物対策連絡協議会が主催し、国土交通省北陸地方整備局の担当管

北陸地方建設副産物対策連絡協議会  
アイシン・アイレック新潟

## ユニ・ソイル製造など視察 建設リサイクル見学会で

区の職員その他、関係する自治体の職員など19人が参加した。参加者は高含水汚泥が、特殊固化材と混合されることでユニ・ソイルを製造過程を見学。さらに地域の建設汚泥の処理・リサイクル状況や同製品の使用状況について、



意見交換も行われた

アイシンの岩淵武史部長が説明した。同社はユニ・ソイルの製造販売で知られるアイシン（新潟県上越市、熊木繁雄社長）のグループ企業であり、2010年に環境事業

に特化した企業として立ち上げられた。アイシンは新潟県の建設汚泥について、約15%を処理・リサイクルしており、ユニ・ソイルは商品としての価値が地域の銀行から認められ、動産・債権担保融資「ABL（ア

セット・ベースト・レソニング）」の対象となっている他、NET ISのV技術として認定されている。熊木社長は、「公共工事での残土の使用が増えることで、全体として建設汚泥のリサイクル先が減っている」と現状について話し、上越地区では、これらの残土にセメントを混ぜることで強度を高め、盛土などに利用する工法が使用されるケースが多くなっていることなどを説明した。岩淵部長は新技術としてユニ・ソイルを残土に30%程度混合させることで、必要なCBRを発現でき、残土にセメントを混合させる工法よりも低コストとなることを提案し、「同工法ではコストも抑えられる上、残土の使用、建設汚泥のリサイクルを同時に促進できる」と話した。